

共同課題についての討議内容

提案者小池基之委員よりの提案

「村落構造の変化に対する推進力」というとき、推進力とは、構造変化そのものではなく、それを前提されているものとして、その要因に中心をおき、その変化に対して阻止的な力を否定するものでない。むしろ、推進する力と阻止する力との合力としての推進力というように解する。」

余田「小池提案に賛成。大筋について簡単に意見を申しますと、村落構造の変化を推進する（阻止するものを含めて）力に関して、後の整理の爲にも、また、出てくる問題を位置づけ、或は整理する爲にも、この問題に関する論理的枠組を最初にどなたかにお願います。この問題にはいでしょうか。即ち、村落構造の変化という場合、或る重要な点（例えば離村）が強調されるでしょうか、しかし、それでは一面的になるので、あらゆる要因を、またそれらの関連を残りなく理論的に考えて、この問題を考えてゆく場合の大きな視角を設定し、また、その考え方を論じておく事が、今後の研究を発展させる爲にも重要かと考えるのですが、如何でしょうか。このように点を小池先生にお願いしてはと存じます。」

後藤「小池提案は村落構造やその変動要因について、実態より理論や方法に重点をおいた論議を要求する形の課題の出し方でありますので、この点なかなかおもしろいのではないかとおもいます。」

山岡「小池提案、核心をついていてまことに結構です。「推進力」についての註がかいてありますが、一見して焦点がはっきりするようになるために次のようにしたら如何でしょうか。

△ 村落構造の変化における推進要因と阻止要因の相克

この問題を説明するために、つぎのような地域における調査事例の発表も現時点で大いに必要ではないかと考えます。

一、都市及び都市周辺における「むら」の構造変化

二、いわゆる「過疎」地域における「むら」の構造変化

昨年度大会での菅野正氏の視点など焦点をついているように思います。

中野「小池提案に賛成。小池の推進力についての説明の中で「推進力とは……推進する力と阻止する力との合力……と解する」というのが、そのとおりの意味で理解されにくいのは、そこで「推進力」と「推進する力」という二つの言葉がそれぞれ別な意味で使われているのと同じ推進・力という文字であらわされているためではないか。合力を推進力と呼ぶかぎり、「阻止する力」に對置されるものを「推進する力」と呼ばない方がよい。そうでないと、「合力としての推進力」という考え方が理解されず、推進に對して阻止というように二つの力を對置した理解を引き起すおそれがある。

山岡提案の「阻止要因」に對置された「推進要因」というのは、小池提案、したがって共同課題にある「推進力」のことではない。」

小池「まえに「むら」の解体というテーマを出したあとで、解体しない再編成といった過程がこれでは否定されてしまうと、いう非

難を受けましたが「解体」といった場合には一つの方向としてそれが指示されているので、再編成といってもそっくりそのままの形の「再」編成ではないはずですが、したがってさきの「変化」といっても「変化」しない村もあるということになりましょうが、そういうところでも、何らかの動きはあったので、その動力が相互に均衡して「動かない」といった外観を呈することもあると思います。推進力などといいますと、また阻止的な力をその反対概念として對置して一方的観点などといわれそうなのでその点を申添えたい。」

中野「「解体」についても同じ言葉が二つの異なる意味で解されたところにくいちがいが生じた。小池の「解体過程」をデイスオルガニゼーションと解してリオルガニゼーションを對置して考える見解がでたのも、ある意味では無理なことと思う。ただし、社会学で「再編成」(リオルガニゼーション)というのは、古いものがそっくりそのまま「再」編成されるという意味では使わない。(たとえばAという構造が解体しつつ、そこに再編成が進行するとうるときは、再びAができてくるなどということなどありえないのであってAがBへと再編成される。Aという構造をもった村落が解体してBという構造をもった村落が再編成されるのであって、村落の再編成というのは、村落が変化しないとか、古い村落構造がそのまま再現するなどということではない。また、そんなことを主張した人があったとは記憶していない。) 推進力というこんどの概念も、その意味をはっきり示しておかないと阻止力の對置概念のように解されるおそれがある。最初の小池提案での推進力の定義を共通の概念とし

て皆が了解しておかないと課題が共通の粹を失うおそれがある。またデイスオルガニイズするまえのオルガニゼイションとしての「むら」といっても、それをどういふ意味でつかっているかが共通でない、それによっても議論のくいちがいが生ずる。(カッコをつけ、ひらかずでむらと書けばそれで、共通の意味がわかるかのよう、に思ったらそれがまちがいのもとである。)また、「むら」のさす意味を共通にしえた場合でも、「解体」が「デイスオルガニゼイション」と同じ意味ではないのだということが充分約束として成立していないかぎり、社会学の人々が「解体」をデイスオルガニゼイションの意味で受取ったとしてもそれをまちがいだときめつけることはできない。(また「再編成」ということを小池先生が「再」びおなじものが「編成」されると言っているかのよう、に受取られたとしても、同様である。)このような誤解は予めさける必要がある。推進力という言葉は解体の場合のように概念として慣用されていることがないから、小池提案におけるその定義を徹底すればくいちがいの生ずるおそれも少くなると思う。」

小池「山岡提案の「村落構造の変化における推進要因と阻止要因……」というのはいいのだけれども単に「相克」というのでは……」
中野「単に「相克」というのでは「推進力」というのからずれてしまう。」

福武「山岡提案では村が消えていくというよりなことを扱おうというのだからか? 「過疎」地域というのはゴーストヴィレッジになってしまうとか、都市周辺というのは文字どおり都市になってしまう

とか、そういうことを問題にしようとしているのではないと思う。」
小池「ひとつの抵抗としてこういうことがあるのですか、たとえば余田さんの場合でも、「例えば離村」といつているように、山岡さんの村がなくなっていくのをとらえようとされているのも……。」

福武・中野「さあ、そういうことでもないと思う。」

島崎「小池提案では、ともに考えると大変なことになるのではないか。ある人は「生産力」の問題として受留めるだろうし、ある人は「農政」、ある人は「運動」の問題として受留めるだろうし、それを一つの、戦後の農業・農村の過程のなかで理論的に整理しろということになると、えらいことになると思う。」

福武「えらいこととつかかればいいじゃないの。」

小池「問題の立てかたによってはとつかかれないだろうというのでしょう。」

福武「必ずしもばらばらになるとかまとまらないとか恐れなくてよいのではないか。たと村がなくなるというよりな極限状況をとらえるというのは困るのだが、島崎君のいうような色々な面ができてそれらのからみあいを論議するということになれば成功と思う。」
小池「余田さんのいうように方法的な問題、理論的な問題を、まず、全体としての全構造的な視角から整理するという要求があるのだと思う。」

島崎「発表者の力量ということもひとつあるが、それを受留める人の力量ということもあると思う。たとえば生産力の要因を取扱った場合、それをたとえば農政を論じた人が生産力と農政をひとつの

メカニズムとして受留めようとした場合、かなりの力量を要すると思う。」

小池「それに、もうひとつ運動という側面もあるから、そこまで掘りさげて、その上でどのような問題の立てかたをするかというところが必要。僕がそういうことをもちだしたのは、そこまで事態が来ているのではないかと考えるからなのだ。」

福武「思いきってそういう枠組を課題として出してあげば、それその人がそれぞれに考えてこられて、そしておそらくそれがまとまった結論に至らなくても、そこで議論がなされればいいのではないか。」

小池「ただ、問題の受留めかたということが問題になっているときに、それをひとつの方向にもっていくような村落としての出しかたが相当むづかしいと思う。」

福武「しかし、問題とすべき点はこういう所にある、それをどのように考えたらいいか、というぐらいいしほって示せばいいのであって、どの点が一番重要であるなどということまでできる必要はないのだから。そこまできめてしまったら、そういうのではついていけないという人も出てくるだろうが、そういうことではないのだからできないことはないと思う。」

小池「現実には、推進力というものは、そういうものとしてしか考えられない。押し進めるだけの力が片方あって、他方にそれに対して阻止する力があってなんていう考え方がだいたいできるものではないのだ。」

小池「生産力・農政・運動の三つの要因からみるところまでは共同課題の提示中におりこまないのがよい。必ずしもそうじゃないという人もあってよいからだ。」

島崎「村落構造を変化せしめる推進力といって、いったい現在の農業に内部的にそういう力がありうるのかどうかという問題が非常に大きいと思うのですよ、現在の日本の資本主義のメカニズムのなかで。もちろん現在の佐藤の農政というものがあつても、内部的にも働きうるし、外からかえていくような要因になつて働くようなこともあるだろうと思うのですが、普通の理解としては外からの政治的あるいは行政的な任力とか、あるいは都市の影響ということもある意味では外からの推進の力となると思うのですが、そういうものをりけとめてそれを日本の農業・農村の内部の力に転化させるだけの方が、そして農業・農村を推進するだけの力が、いったいありうるのかどうかの検討がいま非常に重要だ。そういう意味なのだと思う。」

小池「ない。しかし、ないからといっても、そのメカニズムをあきらかにすることは大切なのですよ。」

島崎「そこでもっとも基礎的には生産力の展開というものが内部的な推進力として意味をもっているのかどうかということなんだろうと思う。現実には若干トラクターははいってくるし、請負い耕作が若干大きくなってくるのだが、しかし一方では日本の工業の巨大な生産力というよりなものを考えますと、そのような若干の生産力のはいりかたが農民にとって意味があるのかどうかということなの

です。」

小池「したがってそういう場合にもし阻止要因ということを色々あげるならば沢山あげられるのです。しかし基本的には土地所有と
いうことだ。」

島崎「しかし、ぎりぎりまで追いつめられて、そこに一つの飛躍として土地所有に手をつける問題がいったい農政の側からあるいは農民の側から出てくるのかこないのかということ。」

小池「農政の側からは出てくる。農民の側からはどうか問題。」
福武「村落における構造変化のメカニズムという共同課題にして、先にでたような説明をつけたらどうでしょうか。」

小池「メカニズムという、人間というものをとらえなければい
かないのに、生きている農民がどういうふうにくぐりかかっているこ
とがはいってこない。」

中野「それははいってこないと僕はやるべきがしきないですね。」

柿崎「私は小池提案のとりのテーマでやるのがいいと思う。推
進力についても、各人がいろいろな面から考えて来られたのがそこ
で充分に討議されることが大切だと思ふ。また、現段階だけでなく、
小池提案の共同課題ならば歴史的な問題の報告にもあてはめられる
のがよい。」

小池・島崎「同意、農地改革もあり、地租改正もあり、というよ
うに。」

柿崎「経済学で力というばあいと社会学でいうばあいでは力の内容
がどうなのか、もう少し具体的にでてくるときどういう形ででてく

るのか。」

島崎「たとえば生産力といった場合には色々な技術を尺度にして
はかっているが、生産力の高まっていく場合、やはり人間的な要因
というものを充分いれてこなければ経済学的にも意味をなさないと思
ふ。そこで、生産力ひとつとりあげても経済学でも社会学でも充
分とりあげらる。」

小池「しかし、経済学ではこう、社会学ではこうと、言いたくな
いのです。」

こうして一同、共同課題は小池提案のままがよい、いろいろな受
取りかたがあつてよい、ただこの討議や、これからの討議で方向が
でてくれればよい、ということになった。